

3年C組 英語科 単元設計・学習指導案

指導者 向井 俊博

1 日時（場所） 令和5年7月5日（水） 13:30～14:20（3年C組教室）

2 教科領域別研究テーマ

生徒が他者や社会との関係性の中で、自由に表現できる授業展開とメタ認知力を高めるための評価の工夫

3 研究テーマ設定の理由

多種多様な物の見方・考え方がある現代社会では、個性や考え方が異なる他者のことを理解し、意見交換などを通して積極的にコミュニケーションを図り、よりよい関係を築こうとする態度が求められる。外国語教育では、これらの能力を高めるために、スキルの習得だけでなく、習得したスキルを生かし、互いの考えを理解し合い、折り合いをつけながらよりよい関係を築こうとする態度の育成を目指している。社会や他者と積極的に関わり、よりよい人間関係を築こうとする態度は、変化の激しい社会で生きていくために必要な資質・能力につながるものであると考える。

本研究では、英語を通して生徒自身に他者とよりよい関係を築いていこうとする力を身に付けさせたり、教師がそれをうまく発揮させる場面を授業の中で設定したりしていきたい。そうすることによって、より広い世界を視野に入れた変革を起こす力を持った生徒の育成ができると考え、本研究テーマを設定した。

4 単元設計（単元名：Let's Read 1 A Mother's Lullaby）

(1) 単元目標

- 接続詞や時を表す語句に注目して物語を読むことを通して、登場人物の行動の変化やあらすじを理解したり、今後の展開を予想したりすることができる。 「知識及び技能」
- 物語を読み、内容について分かりやすい英語で表現し、平和について考えたことや感じたことなどを It is for 人 to ...などの表現を用いて述べたり、質疑応答したりすることができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- 級友の発表を聞いて、コメントを述べたり質疑応答をしたりする中で、分からない語句があったとしても粘り強く英語を用いてやり取りをしようとする。また、平和に関する話題の語彙が増えるようにワードリストにまとめようとしていたり自分の英語学習の達成度がわかるように振り返りを行ったりする。 「学びに向かう力、人間性等」

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標（第3学年 Stage 1）				
聞くこと	読むこと	話すこと(やり取り)	話すこと(発表)	書くこと
クラスメートの経験などについて、自分になじみのない話であっても、必要な情報や概要を理解することができる。	クラスメートの経験や、社会的な話題などについて、自分の感想や考えを述べられるように、内容を読み取ることができる。	自分やクラスメートの経験などについて、メモなどを活用しながら、伝え合うことができる。	自分やクラスメートの経験などについて、メモなどを活用しながら、具体例や感想などを加えて話すことができる。	自分の経験などについて、具体例や感想などを加えて、まとまりのある文章を書くことができる。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 今までに学習した言語材料の特徴やきまりを理解している。 ② 実際のコミュニケーションにおいて、物語を読んで感じたことについて、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝える技能を身に付けている。	① 物語を読んだ他者の考えを知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要や要点を捉えている。 ② 物語を読んで、その内容や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝え合っている。	① 物語を読んだ他者の考えを知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要や要点を捉えようとしている。 ② 聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてやり取りしようとしている。

(3) 指導計画（全 6 時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	・新出単語や語句の確認を行い、展開を予想しながら、物語の内容を理解する。	知 思	○	・本文を読んで、登場人物の行動や心情の変化などを理解することができる。（観察）
2	・登場人物の心情を理解することを通して、それが表現されるように気持ちを込めて音読する。	思 態	○	・登場人物の気持ちを意識し、抑揚を付けながら、正しく英文を音読しようとしている。（観察） （支援）強調、区切り、抑揚、声のトーン、読む速さを意識させる。
3	・オバマ大統領のスピーチ“A World without Nuclear Weapons”を聞いたり読んだりすることを通して、平和に関する自分の考えをまとめる。	知 思	○	・平和に対する自分の考えなどについて既習の学習を生かして、英文でまとめることができる。（ワークシート） （支援）話型を用いて、自分の意見や考えの伝え方を示したり、辞書を活用させたりする。
4	・“A Mother’s Lullaby”の話し合いを行うための準備をする。 ・ジグソー学習を通して、正しい表現で話せるよう練習する。	態 思		・物語を繰り返して読んだり、読み返したりしながら、自分の考えをまとめようとしている。（観察） ・キーワードやイラストを用いて自分の考えが言えるよう繰り返し練習している。（観察）
5 本時	・リテラチャー・サークルを通して、“A Mother’s Lullaby”の内容について話し合いを行う。	思 態	○ ○	・A Mother’s Lullaby を読んで感じたことや考えたことを、グループで質問し合ったり応答し合ったりすることができる。（観察） （支援）沈黙が続かないよう、机間巡視をして、生徒が意見を述べやすいような発問をする。
6	・パフォーマンス課題	思 態	○ ○	・パフォーマンス評価（観察） ・振り返りシートに学んだことをまとめるようとしている。（ワークシート） （支援）自分の考えをまとめたマッピングやワードリストを確認させ、自分の考えをキーワードをもとに言えるよう助言する。

(4) パフォーマンス課題

あなたはアメリカの学校に留学しています。そこで Todd Parr の「The Peace Book」という絵本を読みました。その絵本を読み終わった後で、その本の中の自分の考えに合う言葉を選び、その理由やそれに関する自分の経験や行動を話さない。自分以外はアメリカ人の友達で、共に平和を目指している仲間同士です。聞き手に配慮をした上で話さない。また、あなたが自分の考えを述べた後、質問の時間があります。その質問にも英語で答えなさい。

5 本単元と研究主題との関わり

(1) 生徒について

今回の研究対象クラス（3年生 1 クラス 31 名）で以下の内容でアンケートを行った。

【英語の授業で英語で「話すこと」は好きか。】							
とても好き	6 名	好き	16 名	あまり好きでない	8 名	全く好きでない	1 名
【英語の授業で英語を「話すこと」を難しいと感じるか。】							
とても思う	11 名	思う	14 名	あまり思わない	5 名	全く思わない	1 名

本学級の生徒は、様々な表現を身に付けようと積極的に英語学習に取り組む生徒が多い。だが、事前に行ったアンケートでは、英語を話すことは好きだが、英語を話すことは難しいと感じる傾向が見られた。これまでにリテラチャー・サークルを 2 回行ったが、その振り返りシー

トを見ると、その英語を話すときに失敗すると恥ずかしいという意識があったり、文法的に正しく英語で話すことが苦手であったり、語彙力が不足して言いたいことを言えなかったりしていることがわかった。そこで、ペアやグループで英語を教え合う機会を増やしたり、全員が受容的な雰囲気のもとで英語で意見を述べる場を設定したりして、生徒が自信を持って自分の考えを表現する力を身に付けさせたい。

(2) 単元について

本時の授業は学習指導要領の目標「(3)話すこと〔やり取り〕 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする」ことを中心にしながら、他の領域の目標とも関連付け、複数の領域にまたがる統合的な言語活動を進めていく。

本時の題材である“A Mother’s Lullaby”は、児童文学作家である大野允子さんが広島の実爆について書いた絵本『かあさんのうた』を英訳したものである。擬人化された木が母子の幸せな様子を見て過去を回想し、原爆投下時の広島の人々の様子について思い出し、語っている。原爆の悲惨さや残酷さを英文の中からは読み取ることができる。また、オバマ元大統領の“A World without Nuclear Weapons”のスピーチからは、次世代の平和のために、自分はどういうことができるのかを考えることができる。

言語材料としては、through, one summer night, after a while などの接続詞や時を示す表現が多用されている。また、原爆投下後の街の人の様子が英語で説明されていたり、広島でのオバマ元大統領の平和への想いに関するスピーチがあったりする。それらの表現に注目させることによって、英語を使用して自らの平和への想いや気持ちを伝えることに繋げていきたい。

(3) 指導について

ア 生徒が自信を高めて英語を話すことのできる工夫

生徒の「話すこと」への不安を解消するために、相談しやすいペアを設定する。生徒にアンケートをとり、ソシオメトリーによるペアリングを行い、「英語の苦手な生徒」が「英語の得意な生徒」に教わるようにする。次に、英会話で使用する定型句を学び、それを生かす場面として、英語での問答ゲームやALTとの対話形式でのパフォーマンステスト、リテラチャー・サークルなどを行い、英語で会話する場面に慣れさせていく。また、英文を読んだ後、クラスの全員で「皆で考えるべき問い」を考え、円になり、皆でその問いに対する自分の考えを言ったり、その感想を伝えたりする。その過程で、生徒たちが安心して発言できたり、多様な考えを巡らせたりできる雰囲気や環境作りを行っていく。

イ プロセスを重視した学習の評価・改善

自分の学びの状況や英語使用の間違いに気付く、文法的に正しく話そうと自ら改善していく意識を持たせるために、学びの振り返りや気づきのあるジグソー学習の場面を設定する。また、まとまりのある英文を読み、その内容について級友と質疑応答したり、自分の考えや感想を話したりさせていく。このように、仲間とともに協働で英語を学習し、英語を積極的に使用することを通して、互いの考えを認め合い、英語で気持ちを伝え合うことに充実感を感じることで、生徒を育成したい。また、帯活動、リテラチャー・サークル、車座での話し合い活動などにおける自分の役割、目標、改善点の振り返りを行う。それを継続していくことで、生徒に自分ができたこと（達成感）や自分ができなかったこと（課題）を認識させ、よりよく英語を使っていこうとする意識を持たせて、自律的に英語学習に取り組む学習者の育成を目指したい。

6 本時の指導（5／6時間）

(1) 主題 How can we make our world peaceful? ～Through the story of “A Mother’s Lullaby”～

(2) ねらい

○ “A Mother’s Lullaby”を読むことを通して、平和のために、自分はどういうことができるのかについて感じたことや考えたことを、グループやクラスで質問し合ったり応答し合ったりすることができる。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・ 予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準 (評価方法)
1 英語で問答 ゲームをする。 (ペア)	4	○ “Do you think Japan is peaceful?” のテーマで話そう。 A1: Yes. We can go to school every day. B1: Why is that peace ? A1: Some students in Africa can't go to school. A2: No. There are some troubles around me. B2: What are your troubles? For example? A2: I often see bad words on the internet.	○相手に分かりやすく伝えるために、結論を先に言ってから理由を述べる。 ○内容を深めるために、5W1Hを意識して質問する。
CAN-DO How can we do for making a peaceful world through the story of “A Mother's Lullaby” ?			
2 リテラチャー・サークル をする。 (グループ)	15	○リテラチャー・サークルをしよう。 ・サマライザーが要約を説明する。 ・イラストレーターがイラストを説明する。 ・クエスチョナーが質疑応答をする。 ・コネクターが自分の経験を話す。 ・まとめの話し合いを行い，“A Mother's Lullaby”を読んで感じたことを話し合う。	○自分の考えを伝えるために、コミュニケーションの大事なスキルを共有する。 ◎積極的に感想を述べたり質疑応答をしたりしているか。 (発話棒・360度カメラ)
3 発表する。 (個人・全体)	8	○全体で感想を共有しよう。 ・ When the girl held the little boy, she remembered his mother. ・ When the little boy listened to the girl's lullaby, he thought she was like his mother.	○多様な考えを知るために、生徒相互で考えを共有する。
4 問いを考え、選ぶ。 (個人) → (全体)	5	○クラス全体で話し合うべき問いを考えよう。全体で問いを共有し、選ぼう。 ・ What do I have to do for peace ? ・ How can we make a world without nuclear weapons?	○生徒が問いを考えやすくするために、“The Good Thinker's Toolkit”を示す。
5 車座になって、話し合う。(全体)	15	○自分の考えを述べよう。感想を言ったり、質問をしたりしよう。 ・ It is important to know about the problem in the world. ・ I think so, too. For example? ・ We need to know about the war between Ukraine and Russia.	○英語で話し合いができるよう、有用な表現や話型を参考に言わせる。 ◎平和に対する自分の気持ちや考えを述べ、質問したり答えたりすることができているか。 (360度カメラ)
6 振り返りをする。 (全体)	3	○話し合いを通して学んだことや達成できたことを振り返ろう。 ・ 英語で質問したりされたりすることで、お互いに考えを深め、平和に向けて具体的に行動していこうという思いを高めることができた。	○学習を振り返って言語化することで、本時のねらいが達成できたかを自己評価させる。

7 研究の視点

- 生徒が物語の内容を理解し、自分ごととして自由に表現するために、リテラチャー・サークルや車座での話し合い活動を行うことは効果的であったか。
- 振り返りを行うことは、生徒が自分の英語の学習に対するメタ認知を向上させることにつながっているか。